

平成 25 年和歌山医大卒の太地良と申します。2021 年 7 月から、米国マサチューセッツ州ボストンにある Brigham and Women's Hospital、水野ラボに留学させて頂き、4 カ月になります。学生時代や初期研修医の時には、自分が留学に行くとは夢にも思っていませんでしたが、整形外科に入局して先輩方から留学経験の話を知っているうちに、もし機会があれば自分も留学してみたいと思うようになりました。卒業後 6 年目からは大学院に進学して大学で勤務しておりましたところ、ありがたいことに今回の留学の話をいただき、大学院 4 年になる卒業後 9 年目で留学が実現しました。

ボストンはアメリカで最も歴史の古い街の一つです。今もボストン市内にはたくさんの歴史的な建物や像が点在していますし、またすぐ近郊にあるレキシントンはアメリカ独立戦争の最初の銃弾が放たれた地であり（上の写真はレキシントンにあるミニットマン像です）、少し足を運ぶとアメリカの歴史に触れることができます。冬は寒さがかなり厳しいそうですが、まだ経験していないので計り知れません。真夏に渡米しましたが、日本のような蒸し暑さはなく、非常に過ごしやすい気候でした。アメリカは少し治安が悪そうなイメージもありますが、ボストンは治安がよく、ラボ近郊は夜一人で歩いても問題ありません。またボストンには北米 4 大プロスポーツリーグすべてのチームがあり、中でも松坂大輔や上原浩治もプレーしていたボストンレッドソックスは街中に球場があり、球場内外がいつも市民の熱気に包まれています（下写真）。



所属しているラボは、整形外科の基礎研究を行うラボです。私を含めて 4 人のリサーチフェローが所属しており、神戸大の脊椎外科医（神田裕太郎先生）、ハンガリーのスポーツ整形外科医、ブラジルのスポーツ整形外科医と私です。私は神田先生とともに椎間板についての研究に取り組んでいます。細胞や組織の培養、生化学的な実験、遺伝子発現の分析、組織切片の作成や染色など、これまで経験してこなかったため渡米した当初は手技を獲得するのに必死で研究内容について考える余裕はありませんでした。最近になり自分でできることも少しずつ増えてきて、研究テーマについてもより興味を持って向き合っています。しかし物品のサプライが滞っていて思うように実験を進められなかったりと、コロナの影響は依然残っており、早く終息することを願うばかりです。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて頂きました山田教授、南出先生をはじめ、医局の先生方に感謝申し上げます。よい近況報告ができるよう頑張ります。